霧多布湿原

（きりたっぷしつげん）

湿地のタイプ：高層湿原、塩性湿地、汽水湖

位置：北緯43度05分、東経145度05分／標高：0～3m／面積：2504ha／湿地のタイプ：塩性湿地、汽水湖、河川、高層湿原、低層湿原／保護の制度：国指定鳥獣保護区特別保護地区／所在地：北海道浜中町／登録：1993年6月／国際登録基準：1、3／EAAFPネットワーク参加地

エゾカンゾウの咲く霧多布湿原

西側上空から見た霧多布湿原（写真：藤田印刷株式会社）

ワタスゲ

湿地の概要：

霧多布湿原は、北海道東部の太平洋に面した琵琶瀬（びわせ）湾、浜中湾の海岸線に沿って広がる、南北約9km、東西約3km、面積3168ヘクタールの湿原である。湿原の主要部分と、湿原の西にある火散布（ひちりっぷ）沼と藻散布（もちりっぷ）沼の474ヘクタール、合計2504ヘクタールがラムサール条約湿地になっている。中央部の803ヘクタールは、泥炭形成植物群落として天然記念物に指定されている。

北海道東部は日本でももっとも寒い地域で、霧多布湿原も冬は雪と氷に閉ざされ、夏は海面に発生する霧で日照が閉ざされ、年間平均気温も6～7℃と冷涼な気候にある。湿原の北部はミズゴケ湿原、スゲ湿原が発達し、南部にはヨシ群落が発達し、湿原の中を流れる河川は、海水の影響を受けてオオシバナやアッケシソウなどの塩性植物が生育している。

湿原の凍結がゆるむ春、秋には多くの渡り鳥がここを中継地として利用する。タンチョウの重要な生息地でもあり、また湿原の後背部が森林と接しているため、エゾシカなどの大型哺乳類もしばしば湿原に姿をあらわす。

花の湿原：

5月～9月には、ワタスゲ、ヒオウギアヤメ、クシロハナシノブ、ノハナショウブ、ハマナスなどたくさんの花の競演が湿原をいろどり、全国からの多くの観光客の目を楽しませている。

トラスト運動：

霧多布湿原の周辺の多くは私有地である。これらの土地を保全するため1986年、地元住民によって「湿原ファンクラブ」が結成され、湿原内の私有地を借り上げて保全する運動に取り組んだ。この運動が共感をよび、全国から多くの会員が集まった。2000年には「霧多布湿原ナショナルトラスト」へと発展し、私有地を買い取るトラスト運動が本格的にはじまった。

エコツアー：

地元の漁業協同組合、観光業者、NPOなどによるエコツアーが多数企画され、全国各地から多くの観光客がおとずれている。

環境教育の拠点となっている霧多布湿原センターでは、湿地の全容がわかる展示や自然観察プログラムを実施、また湿地の調査・研究に対して学術研究助成もおこなわれている。

【湿原トラスト】日本で湿地を守る運動として初めてトラスト運動が導入されたのが霧多布湿原である。NPOが中心になり、開発にさらされる周辺部の土地を借り上げ、買い上げてきた。現在約690ヘクタールがトラストされている。

●関係自治体

浜中町役場　Tel: 0153-62-2111